

「東日本大震災アーカイブ」基盤構築プロジェクト ラウンドテーブル開催要綱

1 背景・目的

「東日本大震災アーカイブ」基盤構築プロジェクトは、東日本大震災に関わる記録・教訓の収集・保存・公開体制の整備を図り、広く国内外へ発信するとともに、次世代へ継承するため、誰もがアクセス可能な一元的に保存・活用できる仕組みを構築することを目的としている。

プロジェクトの実施にあたり、東日本大震災アーカイブの構築・運用にかかる現状と課題を明らかにするとともに、震災関連デジタルアーカイブの構築・運用を普及させるためのガイドラインを取りまとめることを目的として、「東日本大震災アーカイブ」基盤構築プロジェクト ラウンドテーブル」を開催する。

2 名称

本会合は、「東日本大震災アーカイブ」基盤構築プロジェクト ラウンドテーブル（以下「ラウンドテーブル」という。）と称する。

3 検討事項

ラウンドテーブルでは、主に以下の事項に関して検討を行う。

- (1) 東日本大震災アーカイブのシステム構築に係る技術的要件
- (2) 東日本大震災アーカイブの利活用法
- (3) デジタルアーカイブの構築・連携・運用に関する技術・ルール 等

4 構成及び運営

- (1) ラウンドテーブルの構成員は、別紙のとおりとする。
- (2) ラウンドテーブルには座長をおく。
- (3) 座長は、構成員の互選により定める。
- (4) 座長は、ラウンドテーブルを招集し、主宰する。
- (5) 座長は必要があると認めるときは、座長代理を指名することができる。
- (6) 座長代理は、座長を補佐し、座長不在のときは、座長に代わってラウンドテーブルを招集し、主宰する。
- (7) 座長は、ラウンドテーブルの検討を促進するため、ワーキンググループを置くことができる。
- (8) ラウンドテーブルは、必要に応じ、外部の関係者の出席を求め、意見を聞くことができる。
- (9) その他、ラウンドテーブルの運営に関し必要な事項は、座長が定めるところによる。

5 開催時期

ラウンドテーブルは、平成 24 年 10 月から開催し、平成 25 年 3 月を目途に一定の取りまとめを行う予定。

6 庶務

ラウンドテーブルの庶務は、総務省より委託を受けた株式会社三菱総合研究所にて行う。

「東日本大震災アーカイブ」基盤構築プロジェクト ラウンドテーブル
構成員

座長	氏名 (敬称略、五十音順)	所属
	岩崎 康彦	日本放送協会 知財展開センターアーカイブス部 チーフディレクター
	岡本 真	アカデミック・リソース・ガイド株式会社 代表取締役/ saveMLAK プロジェクトリーダー
	高野 明彦	国立情報学研究所 連想情報学研究開発センター長・教授
	高橋 義典	ヤフー株式会社 写真保存プロジェクト サービスマネージャー
	長坂 俊成	独立行政法人防災科学技術研究所(311 まるごとアーカイブス) プロジェクトディレクター(311 まるごとアーカイブス代表者)
	松崎 太亮	神戸と学ぶ防災市民塾事務局長

「東日本大震災アーカイブ」基盤構築プロジェクト 技術ワーキンググループ 構成員

座長	氏名 (敬称略、五十音順)	所属
	安藤 昌也	千葉工業大学工学部デザイン科学科 准教授
	岩爪 道昭	独立行政法人 情報通信研究機構
	大向 一輝	国立情報学研究所コンテンツ科学研究系 准教授
	檜村 雅章	尚美学園大学 芸術情報学部 情報表現学科 准教授
	嘉村 哲郎	東京芸術大学 芸術情報センター/総合芸術アーカイブセンター 芸術情報研究員
	神崎 正英	ゼノン・リミテッド・パートナーズ代表
	高野 明彦	国立情報学研究所 連想情報学研究開発センター長・教授
	研谷 紀夫	関西大学総合情報学部 准教授/博士 (学際情報学)
	森山 光良	岡山県立図書館

「東日本大震災アーカイブ」基盤構築プロジェクト 利活用ワーキンググループ 構成員

座長	氏名 (敬称略、五十音順)	所属
	天野 和彦	福島大学うつくしまふくしま未来支援センター特任准教授
	稲垣 文彦	(社) 中越防災安全推進機構 復興デザインセンター長
	上野 達弘	立教大学法学部 国際ビジネス法学科教授
	及川 卓也	Hack For Japan
	川内 淳史	関西学院大学 大学院研究員 歴史資料ネットワーク事務局長
	佐藤 健	東北大学災害科学国際研究所 情報管理・社会連携部門 災害復興実践学分野 教授
	関谷 直也	東洋大学社会学部メディアコミュニケーション学科 准教授
	田中 淳	東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター長・教授
	遠井 基樹	港区防災危機管理室
	福島 幸宏	京都府立総合資料館 歴史資料課
	藤沢 烈	(社)RCF 復興支援チーム
	松崎 太亮	神戸と学ぶ防災市民塾事務局長
	山口 裕之	宮城県立光明支援学校

【別紙.1】ラウンドテーブル及びWGの予定（案）

今後の主なイベント

※ラウンドテーブル（RT）,WG 時期は想定

	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
開発		一次開発 →	▲	二次開発 →	▲	三次開発 → 連携テスト ↔ 運用検証 ↔	★ 3/11 サービス開始
運用実証	▲業者決定	制度運用委員会①	▲	▲制度運用委員会②	▲中間報告	▲制度運用委員会③	最終報告▲
コンテンツ		種別整理 → コンテンツ収集 →	→	メタデータ付与 →	蓄積・利活用 →		検証
システム		設計 →	→	構築 →	運用 →		取りまとめ
体制		→	収集 →	→	雇用創出 →	保守運用 → 利活用 →	
ガイドライン (※)		→	①・② → ③ →	④・⑤・⑥ →			
RT		◎				◎	◎
技術 WG		○		○			○
利活用 WG		○		○			○

※ガイドラインの構成

- ①被災資料の応急措置、修復、保存に関するガイドライン
- ②震災関連情報のデジタルデータ化ガイドライン
- ③震災関連情報のメタデータ利用ガイドライン
- ④デジタルデータ長期保存・利用のためのガイドライン
- ⑤震災関連デジタルアーカイブ構築・運用のためのガイドライン
- ⑥震災関連アーカイブ利用者向けのガイドライン